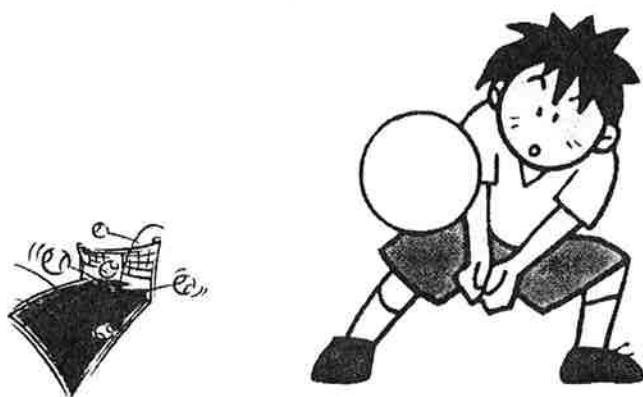


ミニバレーボール 審判ルール



天草本渡ミニバレーボール協会

2014年4月1日

《はじめに》

今日、ミニバレーボールは4人制、5人制、6人制など様々な形で、またいろんなクラブ、愛好会、サークルなどで楽しまれています。

ミニバレーボールは9人制、6人制バレーボールのおもしろさを取り入れ専門的な技術が無くても、また年輩の方でも気軽に楽しめる一方、競技力を磨けばそれ相当のおもしろさと魅力があります。しかし、ミニバレーボールの競技規則・ルールははっきりと定まったものではありませんでした。そこで「規則・ルールを統一化しよう」という目的で協会が結成されました。

これまでの大会等を通じ一定の規則・ルールが認識されてきております。これは参加される各チームの皆様が、協会の趣旨をよくご理解されてご協力していただいていたおかげだと思っております。ここに厚くお礼を申し上げます。まだまだ未完成のルールではありますが、今後皆様のご意見を取り入れて、協会ルールの完成と更なるミニバレーボールの普及とルールの統一化を計っていきたいと思います。

審判員の心得と役割

◆ 審判員の心得として、節度ある態度で勝ち負けのみを意識したものではなく、規則・ルールに従って和気藹々とした楽しいものとなるよう配慮して、審判を行う。

また、プレーヤーはスポーツマン的態度で競技力の向上を目指す。

- ①審判員は自信を持ち、規則・ルールに従って節度ある動作ではっきりとしたハンドシグナルを行う。
- ②副審・線審は反則等のプレーを主審にアピールし、主審はそれを参考にして判定を下す。副審・線審は主審にアピールする為、しばらく反則等のシグナル・ポーズをとっておく。
- ③審判員はそれぞれの任務を遂行すると同時に、互いに協力し合って審判を行う。

④ 《主 審》

- ・競技における審判の最終的な判断は主審が行う。
- ・笛を吹いた後にハンドシグナルで反則等をプレーヤーに示す。
- ・他のボールがコートに入ってきたときなど危険と判断される場合はプレーを中断できる。しかし、プレーに支障がないと判断されるときはプレーを続行し、むやみにプレー中断としない。
- ・主審は次のように競技を進行する。

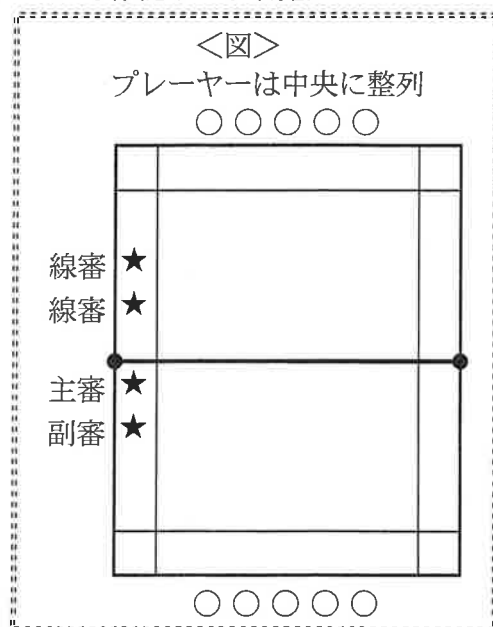
1) 主審は競技者及び審判員が揃っているかを確認する。副審はボールを保持する。

2) キャプテン同士のジャンケンにより、サーブとコートを選択させる。
(副審は先攻・後攻チームを確認する、必要に応じて記録する)

3) 「ピッピーツ」の笛で審判員と競技者を右図のように整列させた後、一歩前へ出て「ピーツ」と笛を吹き、一礼させネット下で握手をさせる。(ここで、副審・線審は定位置へ移動する)

4) 練習は3回以内とする。

(主審台にはまだ乗らない)



- 5) 主審台に上がり、ローテーション位置の確認をする。
「ピーッ」の笛で開始用意
「ピーイピッ」で第1サーブを始める。以下サーブ開始の笛は「ピッ」と吹く。
- 6) 「ピーッ」の笛でチェンジコートを行う。競技者は外を回りそのままコートに入る。副審はローテーションの位置を確認する。
上記に同じく、第1サーブの笛を吹き試合開始する。
- 7) 試合が終了したら、「ピッピーッ」の笛で試合開始と同様に審判員と競技者を整列させる。主審は一步前へ出て勝利チームを宣言し、「ピッ」の笛で一礼、ネット下で握手をさせる。
- 8) 両キャプテンを呼び、副審立会いの元でサインをさせる。
尚、副審は得点を対戦表に記入する。

注※ 主審は随時得点を確認後、サーブ側、レシーブ側のポジションを確認してから、次のサービスの笛を吹く。

注※ 主審・副審及び線審の判定が異なる場合は、集合協議し決定する。

注※ 競技中、片方の手はネットの上に載せておく。(プレーヤーやボールがネットに触れるのを確認するため)

《笛の吹き方と合図》



ピッピーッ	: 競技者を整列させる為の合図
ピーッ	: 次の行動に移す為の合図
ピーッピッ	: 各セットの始まりで、第1サーブ開始の合図
ピッ	: サーブ開始の合図、判定その他の合図
ピッピッピッピーッ	: 緊急時や行動を止めるときの合図

⑤ 《副 審》

- ・副審はハンドシグナルで主審の補佐を行い、基本的には笛を吹かない。
- ・他のボールがコートに入ってきたときなど危険と判断される場合は笛を吹きプレーを中断できる。しかし、プレーに支障がないと判断されるときはプレーを続行し、むやみにプレー中断としない。

・副審の最重要な役割

男子前衛時のアタックにおいて身体が浮き上がっているかどうか、常に

アタッカーの足元を注視する。反則があれば即手を挙げて主審にアピールする。

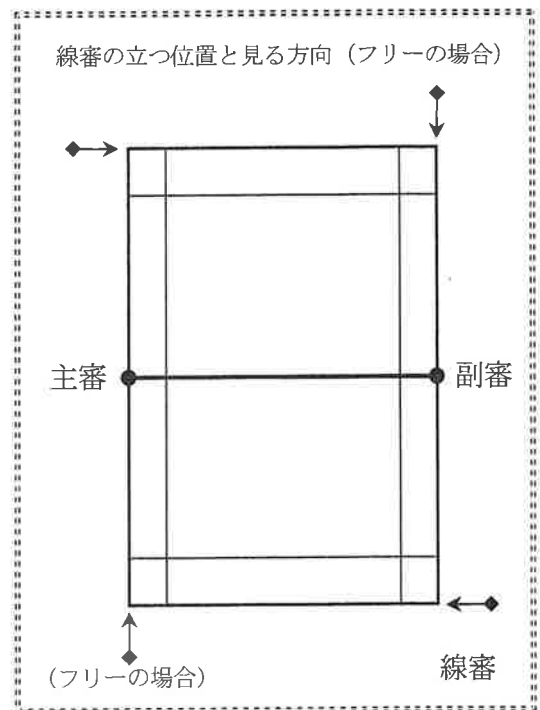
- 1) 主にタッチネット、ワンタッチ、オーバーネット、イン、アウト、アタックラインオーバー（後衛）、マーカ外通過などの審判を行う。
その他にローテーションの確認、チェンジコートの確認と連絡等も行う。
- 2) 主審が気づかなかった反則等のプレーはボールデッド後に主審に報告する。反則があった場合手を上げておく。主審がボールデッド後に反則を確認する。
- 3) サーブ順（ローテーション位置）、選手交代、タイムアウトのチェック等を確認する。
- 4) 試合終了したら得点表に点数を記入し、両キャプテンのサイン（確認）を貰い、本部へ点数を報告する。

⑥ 《線 審》

- ・フリーの部につき線審を4名にする。
- ・線審はライン上のアウト・インを右回りに（時計方向）に審判する。
- ・1つのラインだけでなく、近くのラインについても審判・判定（ジャッジ）を行う（主審判断の補佐を行う）

- ・他のボールがコートに入ってきたときなど危険と判断される場合はプレーを中断できる。しかし、プレーに支障がないと判断されるときはプレーを続行し、むやみにプレー中断としない。

- 1) ボールの接地面がラインに接触すればインと判定する。
- 2) ワンタッチ、サーブ時のラインクロスなどの審判を行う。
- 3) 反則等に主審、副審が気づかなかったときはボールデッド後に主審に報告する。（反則があった場合暫く旗を上げておく）



- 4) トラブル等で判定できなかったときは旗と腕を胸の前でクロスする。分からなかったり、見ていなかったときはムリに判定の旗を振らず判定不能の合図をする。

(その他)

審判ルール第10条(反則)におけるボールのボール頂上の通過については、ボールの想像延長線の間を通過しなかったときは反則とする。従ってボールの想像延長線上をボールの一部が通過した時は、ボールの頂上に触れたものと同等と見なして、反則となる。

5人制ミニバレーボール競技規則

2014年4月
天草本渡ミニバレーボール協会

第1条（競技の成立）

- ・ 競技は主審のほか、副審、線審、記録係を持って成立とする。

第2条（コート・支柱及びネット）

- ・ コートは11.88m×6.10mのバドミントンコートを使用し、支柱及びネットの高さは2.0mとする。

第3条（ボール）

- ・ ボールはミカサソフトバレーボール（軽量）（周囲77～79cm）を使用する。

第4条（チーム）

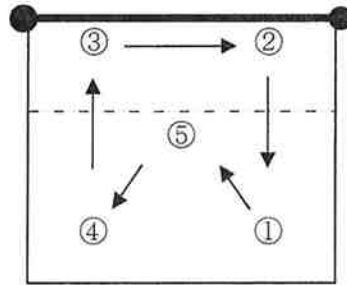
- ・ 1チームは5名の競技者とし、5名以内の交代競技者をおくことができる。
（但し各大会において変更もあります。）
- ・ 競技者は男女混合（男性は3名以下）若しくは女性のみとする。
- ・ 監督（又はキャプテン）はマーク（リボン等）を付けなければならない。
- ・ 競技は必ず5名で行われなければならない、メンバー5名が揃わないときは失格とする。
- ・ 最後に得失は31：15とする。（もしくは25：11）
試合途中でメンバーが4人になった場合、試合は31：15で終了しその後双方と主審の判断で練習として続行しても良い。

第5条（競技方法）

- ・ 得点は31点先取勝とし、16点でチェンジコートをする。
- ・ 監督（又はキャプテン）は「ジャンケン」を行い、勝者がサーブとコートを選択する。（「ジャンケン」で負けた方はサーブ権・コート権ともありません。）

- ・サーブの時は両チームともサーバーの手からボールが離れるまで、定位置（M字の形）をとらなければならない。

「M字のポジション」（番号はサーブ順を示す）



※⑤中衛（センター）は後衛のまん中の人。

←（アタックライン）

←（アタックライン内側）

注意：ポジショニングでM字形をとる場合前衛はアタックラインの前で無くても可。原形としてM字を守れば良いものとする。

第6条（アタック）

- ・アタックラインを設ける。

（前衛）女性又は60歳以上の男性のみジャンプでアタック可。

男性60歳未満は片足をついてのアタック可。

※返球だけなら身体が浮いてもよい。（フェイント不可）

（中衛）まん中の人、前衛と同級扱いとする。

（後衛）バックアタックのみ、アタックラインの内側からジャンプして、アタックラインを踏むか外に着地したらアウトとなる。

後衛からアタックラインの前までの移動アタックの禁止（女性及び60歳以上でも不可、片足ついてもアタックも不可）

《補 足》

前衛（図②及び③の位置）

女性の場合：全てにおいて自由（ジャンプアタック可）

男性の場合：60歳以上：1部フリー及び2部オール230において（ジャンプアタック可）

60歳未満：前衛において片足をついてのアタック可。

（前衛の選手がアタックラインの内側（ライン後方）に下がってのバックアタックは可。）

中衛（図⑤の位置）は前衛と同等であるので、男女とも前衛として扱

う。)

後衛 (図①及び④の位置)

男女共 : アタックライン内側 (ライン後方) においてバックアタック及び足をついてのアタック可。

アタックラインより前へ出た移動アタックは女性及び60歳以上でも不可、片足をついてのアタックも不可。

※但し、レシーブ・トス及び返球だけであれば後衛の選手がアタックラインの前へ出てジャンプすることは可。

第7条 (サーブ)

- ・サーブはアンダーサーブのみ。変化球は禁止。警告をする。
(1回目は警告をして、サーブがコートに入った時は打ち直しとし、アウトの時はそのままアウトとする。2回目以降は反則とする。)
- ・サーブは正面を向いて行い体と手の間隔がボール1個以上離れたら横打ちとみなし警告する。(1回目は警告をして、サーブがコートに入った時は打ち直しとし、アウトの時はそのままアウトとする。2回目以降は反則とする。)
- ・サーブのローテーションは時計方向へ1つずつ移動して行う。
- ・サーブ順はそのセットが終了するまで変えることはできない。
- ・サーブはエンドラインの後方で、(サイドラインの延長線上より内側から) アンダーハンドで行い、その回数は1回とする。
- ・サーブはボールを手のにのせて手のひらで打たなければならない。
- ・ボールを打つ前につまんだり、変形させてはならない。
- ・サーブはエンドラインを踏んだり越えて行ってはならない。
- ・サーブを打つ側のプレーヤーはサーバーの動きを隠そうとする行為 (グループスクリーン等) は反則とする。
- ・サーバーがサーブ順を間違えて行った場合はアピールプレーが成立した時点で失点としサーブ権は相手にわたる。但し自己申告による場合及び審判からの指摘による場合は、正しいサーバーが打直すものとする。(失点無しとする。)
- (アピール無く次のプレーに入った場合はそのまま試合続行とする。)
- ・次のような場合は1回目を警告やり直しとし、2回目から反則と

する。

- (1) ボールを変形させてサーブをしたとき。
- (2) オーバーハンドサーブ、横打ちサーブをしたとき。
- (3) 変化球サーブを打ったとき。
- (4) ボールをヒットせず持って（手に乗せて）投げた状態のとき。
- (5) その他、審判が反則サーブまたは不正行為と認めたとき。

第8条（選手交代）

- ・選手交代は2回とし監督（又はキャプテン）がボールデッド時に主審に対して要求する。（交代する人数は制限しない、但し一度コート外に出た選手が再びコート内に戻るときは、交代した人と代わる。
- ・但し、事故等があった場合の選手交代は主審判断により柔軟に対応する。
（回数制限の緩和及びポジションの緩和）

第9条（プレー）

- ・競技者は主審のあいず（笛）によってプレーを開始、中止又は終了する。
- ・ボールは必ず3人の手（上半身）を経て相手コートに返す。
但し、3回目にボールがネットに触れた場合のみ、あと1回のプレー（5人のうち誰でも良い）が許される。
（ボールのネット巾の部分はネットの一部とみなす）
- ・二人同時にボールに触れた場合は1回と見なし、一人は（どちらでもよい）そのままプレーができる。

（プレーの中断）

- ・試合中に他のコートからボールが入ってきた場合でただちに危険と判断される時は、全ての審判員（主審・副審及び線審）がプレーを中断させることが出来ることとする（判定はノーカウントとする）。
プレーに影響が無いと考えられる時は主審の判断を待つこととし、ボールが入ってきたからといって即プレー中断とはしない。
（但し、判断に迷う場合は危険を防止する為に、中断させることが望ましい。）

第10条（反則）

- ・ドリブル、ホールディング等は反則とするが、平手レシーブについては特に制限しない。

- ・サーブ及びアタックのレシーブが上半身に2度触れても反則としない。

（但し一連の動作による場合とする。）

- ・ボールが腰から下に触れた場合は反則とする。

- ・返球でボールがボールの頂上に接触又は、外側を通過（ボールの延長線の外側も含む）した場合はアウトとする。

- ・競技者がプレー中にネット又はボールに触れた場合は反則とする。
（但し、相手側からのボールによりネットがふくらんだ場合はOK）

- ・プレー中にボールが、コート外にあるものに触れた場合はアウトとする。

（壁・天井・バスケットリング等・審判・審判台・点数盤他、人も含む）

- ・プレー中にボールがネット又はネットの横の延長線を越えて相手側に入った場合はアウトとする。

- ・次の場合はオーバーネットの反則とする。

（1）アタック後ネットから手が出た場合。

（2）ブロックでネットから手が出た場合（ボールに触れなくてもオーバーネットとする）

（3）全てのプレーでネット上より手が出た場合。

- ・但し、ネット下プレーは体が相手側に入って相手に接触したり、妨害となった場合に反則とする。

- ・味方同士で支え合ってプレーをしたときは、反則とする。

（リフティング及び踏み台等）

（4）男性前衛時のアタックの時、ボールに触れる前に身体が浮いてはいけない。

（5）ライン上のインとアウトの判定は、ボールの接触面がラインに接触すればインとする。

（参考）

ワンタッチブロックの見方（判定の仕方）（副審）

- ・ブロッカーが“ワン”と発声した場合、主審が見て明らかにふれて

いない場合を除きワンタッチがあったものとする。

- ・“ノー”と発声した場合でも主審（副審）が見て明らかにふれている場合ワンタッチがあったものとする。

- ・何も発声しない場合、主審（副審）の判定にする。

後で“触れた。触れていない”は問題としない。

第11条（タイムアウト）

- ・監督（又はキャプテン）は1試合に2回（1回30秒以内）のタイムアウトを審判に要求することができる。

第12条（抗議権と退場）

- ・抗議権は監督（又はキャプテンのうち1名）のみ有する。

- ・審判の判定に対してくどくど文句を言ったり、嫌がらせをするような行為・行動をしてはならない。主審はそのような行為・行動をする人を退場させることができる。

第13条（棄権と失格）

- ・審判員が揃っても、競技者が揃わないときは主審の判断により棄権（なるべく柔軟に対応する）とみなす。審判員が揃ってから3～5分を目安とする。

- ・プレー中、事故等でメンバー（5名）が揃わないときは失格とする。

（棄権及び失格の場合の点数は31対15とする。）

- ・事故等の治療時間は概ね5分とする。（レフリースタイム）

※マナー及びお願い

- ・サーブ等でボールを相手チームに渡すときはネットの下から返すこと。
- ・プレー中に転がったボールは審判に任せず、プレーヤーが取りに行くこと。
- ・会場の都合でルールの変更を行うことがありますのでご了承ください。
- ・各チームに必ず大会競技ルールで審判できる人を用意すること。
- ・試合の無いチームは審判等の試合運営に協力をお願いします。
- ・スベリ止めの無い手袋等の着用は原則として自由とするが、事前に相手チームへ手袋の使用について告げるものとする。但しスベリ止めの付いた手袋等の使用は禁止とする。
- ・大会中の事故については、主催者側で団体スポーツ保険に加入しております。

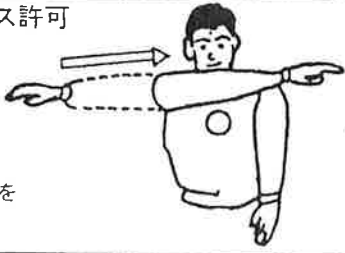
※ゴミの持ち帰り、体育館シューズで外に出ない、違法駐車をしないなどのルールは必ず守って下さい。又、終了後の清掃にもご協力をお願いします。

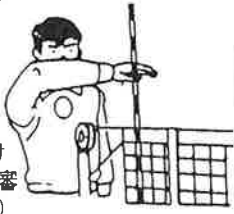
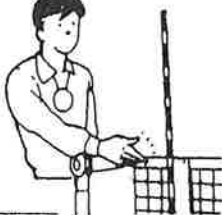
メモ欄

[illegible]

審判員のハンド・シグナル例

(主審・副審・線審)

審判員		主: 主審 副: 副審
主	● サービス許可	 サービスの方向を手で指示する。
主副	● ポイント	 サービスをするチーム側の腕を横にあげる。
主副	● ボール・イン (グッド)	 フロアを指す。
主副	● ボール・アウト	他の競技者や物体に当たった場合も同じ。  手のひらを自分の方に向け両手をあげる。
主	● ダブル・ファウル (ノー・カウント)	 両手の親指を立てて、両腕をあげる。

審判員		主: 主審 副: 副審
主	● オーバー・ネット	 片方の手のひらを下に向けネット上方に伸ばす。(副審は同様の動作で合図する。)
主副	● オーバー・タイムス	 指を 4 本伸ばし、その手をあげる。
主副	● サービス・ボール、選手のタッチネット	 ネットの上方または側面に 反則を犯した側の片方の手で触れる。
主副	● ワン・タッチ	 片方の手を上げ、その手の指先を他の指腹でブラッシュをかけるようにさする。
主副	● ホールディング	 片方の手のひらを上に向け、前腕をゆっくり持ち上げる。

審判員

主: 主審 副: 副審

主副 ● ドリブル



指を2本伸ばし片方の手を上げる。

主副 ● サービス時にボールをヒットしなかったか、または、トスしないで打った時（手に乗せて持って投げた状態）



腕を伸ばし、片方の手のひらを上に向けて上げる。

主副 ● フット・フォールト（ラインクロス）



サーバーを片方の手で指して、次に足もとを指す。

審判員

主: 主審 副: 副審

主副 ● ブロックの反則（ワンタッチ等）



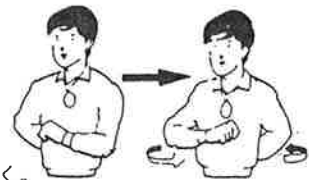
両手のひらを前に向け両腕を上方に上げる。

主副 ● アウト・ポジション



片方の手の人差し指で身体の前に円を描く。

主副 ● チェンジ・コート



左腕は前から後ろへ、右腕は後ろから前へ弧を描く。

主副 ● 選手交代



両腕の前の部分を、お互いにぐるぐる回す。

主副 ● タイム・アウト



片腕を立て、その上に反対側の腕を横にしてT字を形作る。

審判員

主: 主審 副: 副審

主副 ● セットおよび試合の終了



手のひらを自分の方に向けて両腕を胸の前で交差する。

線審のハンド・シグナル

線 審

線: 線審

線 ● グッド

旗を下げる。

線 ● アウト

旗を上げる。

線 ● ワン・タッチ

旗を立て、他方の手のひらを旗の先端にのせる。

線 ● ボールがアンテナおよびその外側の用具に接触するか、その上方外側を通過したときおよびフット・フォールト
(ラインクロス)

アンテナまたはエンド・ラインを片方の手で指し頭上の旗を左右に振る。

線 ● 判定不能

両手を上げ、両手を胸の前で交差する。

